

専念寺通信

5月号 (NO.153) <http://sennenji.s296.xrea.com/>

風かおる五月がやって参りました。専念寺の緑も毎日、ぐんぐんその濃さを増しています。下の写真は墓地のケヤキ、右上は墓碑の紫蘭（檀家さまに名前を教えてくださいました）、今年はたくさん咲いています。右下は入り口のイチョウの樹にからまるツタの緑です。都心のこんな小さな寺でも、初夏には緑がどんどん勢いを増します。

☆施餓鬼会法要

5月の最後の日曜日が施餓鬼会です。毎年200名を超える檀家さまを迎えて、大法要を営みます。施餓鬼会は、餓えに苦しむ餓鬼に飲食（おんじき）を施す法会（ほうえ）です。その由来をいま一度お話しいたします。お釈迦さまの弟子、阿難が、ある日の夕暮れ時、瞑想していると、口から炎を出す鬼（焰口餓鬼・えんくがき）が突然現われます。鬼は、阿難の生命があと3日であると告げて消えます。阿難は苦悩し、お釈迦さまのもとに教えを乞いに行きます。お釈迦さまは、餓鬼道に堕ちて苦しんでいる焰口餓鬼たちのために法要を営むよう諭しました。その結果、飢えに苦しむすべての餓鬼は救われ、阿難もまた、福德寿命を得ることができました。この法要の意義は、餓鬼道に堕ちて苦しんでいる存在を救うために飲食を施すだけでなく、この供養を通して、困難な状況にあるこの世のすべての命に思いを致し、あわせて私た

ち自身もが共々に救われることを願うという点にあります。

☆戦争に反対です

いま、私たちの国は大きな岐路に立っています。大震災と原子力発電所の大事故、その終わりの見えない処理の問題があり、その被害を受け続けている大勢の人たちが

ありながら、一方で今の政権は、近くの国々との緊張を高め「敵国」の存在をしきりと言い、平和憲法を変更して「国を守る」ために「国防軍」を設置しようとさえしています。しかし、冷静になりましょう。国を守るのは武器ではありません。頭脳です。交渉力です。「武器があれば原発被害を防げますか？」という投書が新聞にありました。もったもな疑問で、核心をついた言葉だと思います。また、同じ新聞の別の日に86才の女性の次のような投書もありました。叔父様が太平洋戦争で餓死されたことに触れ、「陸海軍人の死者は約240万人だったが、そのうち実に7割が餓死だった」という作家・半藤一利氏の言葉を引いたうえで、「これは祖国防衛のための戦死でしょうか。戦争を経験した私たちが今の憲法のおかげでどれだけ心おだやかに戦後を生きてこられたか、若い「改憲論者」の政治家の皆さんは考えたことがありますか。もう一度謙虚に昭和の歴史を見直して下さい。近隣諸国との友好のために知恵を結集してください」と結んでいます。「普通」の市民のまっとうなそして鋭い指摘です。普段、人を殺せばそれは罪です。ところが戦時には人を殺しても罪になりません。戦争はおおがかりな殺人の行なわれる異常事態です。「殺すなかれ、殺させるなかれ」の言葉をいま一度胸に刻みましょう。

平成25年5月1日 大黒

